

# ソーシャルスキルトレーニング(SST)を活用した日本語教育の授業づくり —学齢後期からの「自立の力」を蓄えるために—

前嶋深雪

(相模女子大学 兼任講師)

小林和真

(神奈川県立高等学校 教諭)

→相談援助・福祉的な介入

## 定時制高校に入学する外国につながる生徒に対する ソーシャルワークの介入 Point

- ① 定住・永住資格を持つ生徒の比率が高い
- ② 高校卒業後は、日本での生活を希望
- ③ 中学生年代(12,13歳)からの日本語の勉強
- ④ 世帯内で不安定要素が生じやすい
- ⑤ ヤングケアラーになりやすい

### リスクを背負いやすい環境

世帯収入の不安定さ  
日本語の学びが深まらない  
通訳や兄弟の世話の依存  
ロールモデルの不在

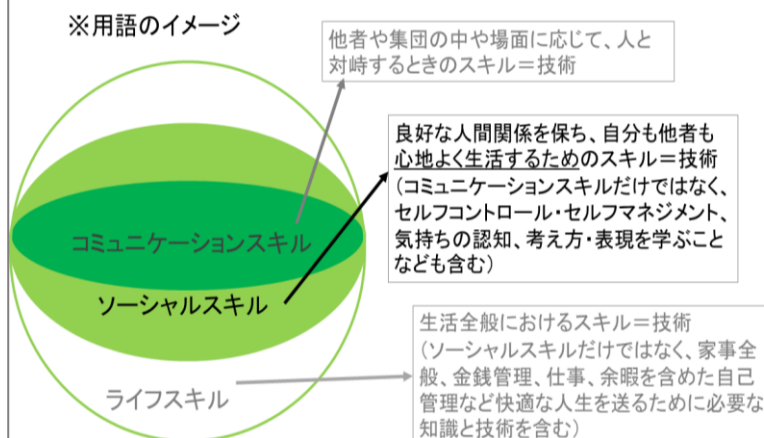
学齢期後の自立を見すえて、言語運用の視点からの日本語教育として

## ソーシャルスキルトレーニング(SST)の活用

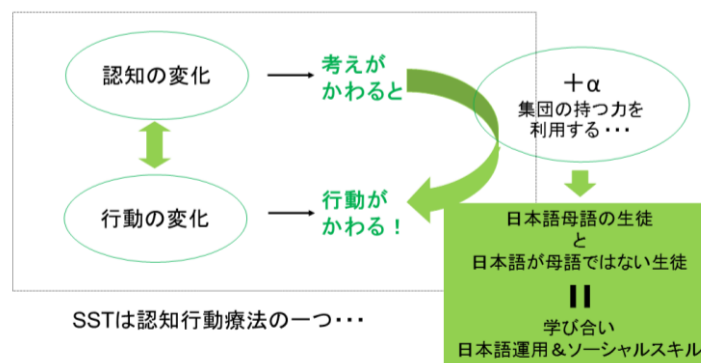
実践の場: 定時制高校1年次クラス 45分×2コマ  
授業参加生徒 13人(15歳~16歳) / 16人中  
うち日本語母語でない生徒11人  
〈国籍〉ペルー 4人 フィリピン 2人 カンボジア2人  
ブラジル 1人 中国 1人 日本 1人

### ~授業づくりPoint~ (5)は授業後にチェック

- (1) 言語運用場面でとらえる
- (2) 社会文化の中での運用であることを意識する
- (3) 場面や関係性の中で異なっていくことを知る
- (4) 自分の言語運用と関連づけて考える
- (5) ソーシャルスキル尺度をはかる



●SST(ソーシャルスキルトレーニング)の基本は・・・  
新しい考えや方法を「知る」ことで、行動が変わるということ



板書 & 授業スライド抜粋

■男子生徒Aくん  
国籍:ペルー  
(定住資格)  
言語:スペイン語  
日本語



授業名  
「Ja・CoP」  
日本語コミュニケーションプログラム  
担当:まえしま  
「ことば」について  
考える 比べる

「すみません」と  
「ごめんなさい」  
どちらがう?

「すみません」と  
「ごめんなさい」  
使い分けの  
コツは?

●ソーシャルワーク(PTA) ソーシャルスキルチェックリスト

◎レベル診断項目 1-2-3-4-5 (1=ない・できない→2-3-4-5=ある・できる)

1. おどおどした感じがある(落ち着かない・そわそわしている)
2. しばしば退室し、一人で外にいることがある
3. 顔を上げて発言することができる
4. 笑顔の表情を適切な場面で用いることができる
5. 集中して取り組むことができる(プログラムに参加できるエネルギーがある)
6. 話し方がスムーズである(だたどしくない)
7. 言葉かけに適切に反応しようという姿勢(態度)がみられる
8. 相手の立場に立って考えることができる
9. 相手を不快にさせる言葉を慎むことができる
10. 相手の意見を聞くことができる
11. 相手の意見に共感することができる
12. 話し手の声の場所を察することができる(だれが発言しているかわかっている)
13. 相手が話しているときに、口をつくむことができる
14. 集団の中で発言を求められたときに、スムーズに言葉を返すことができる
15. 自分の考えや思いを言葉や態度で他者に伝えることができる
16. 褒め言葉を過剰に否定せず、受け入れることができる
17. 否定やマイナスの評価の言葉が先にくることはない
18. 気持ちをきりかえることができる

① 本日の様子

- ・体の一部がいつも動いている(オーバーアクション気味)、落ち着かないしぐさが見られる
- ・自分の考えや思いを伝えることは得意だが、相手の話を待ってじっくり聞くのは苦手な様子(話を最後まで聞けない)
- ・言葉をまとめて話すことが、難しいように感じた
- ・話し方も場に応じて、丁寧な言葉を選び話すことができる

② 今後のかわり・進め方

- ・語彙力を高め、自分の思ったことを自在に表現できる日本語能力を身につけていく
- ・反応が早いために誤った解釈も生じやすい。活動的なので、机に座ってじっくり取り組むのは得意ではないと思われるので、実際の経験の中で(コミュニケーション)語彙力や聴覚理解を高めていけるようにしたい

授業コメントシート 名前( )

① Ja・CoPは、たのしかったですか?  
どこかに○→ たのしい・まあまあ・たのしくない  
理由は?

② Ja・CoPで、発見したこと・わかったことは?

③ 自由感想(気持ちや意見)